

いさわ



手のひら大の臼と杵を手にミニ餅つき体験を楽しむ児童

水の郷さくらまつりが4月25日、徳水園特設会場で行われました。当日は朝から雨が振り続く肌寒い天候でしたが、祭りの開始を告げるよさこいチーム飛勇凛による躍動感あふれる演舞披露に引き続き、豪華景品が当たるさくら餅まきや地元児童らによる大黒舞と神楽の披露など、寒さを吹き飛ばすような、熱気あふれるイベントが次々と繰り広げられました。

中でも手のひらサイズの臼と杵を使ったミニ餅つき体験コーナーが、子どもから大人まで大盛況。参加者はつき終えたもちにあんやきなこを思うままにからめて、舌鼓を打っていました。

おいしいもちに笑顔が満開
水の郷さくらまつり

まちの話題



合併効果検証で活発な討論

青年会議所がシンポジウムを開催



それぞれの立場で活発な意見交換が行われたパネルディスカッション

水沢・江刺の両青年会議所が主催する奥州市合併効果検証シンポジウムは4月11日、胆江地区勤労者教育文化センターで開かれました。この催しは、合併4年目を迎える奥州市が、合併によって市財政や市民生活がどのように変化してきたのか、民間目線で検証しようと企画されたものです。

初めに市民を対象に行った住民意識アンケートの集計結果が公表され、その結果を受けて、行政や各種団体、報道機関などの代表者7人が討論を行いました。討論では「若い世代の声をもっと市政に反映させてほしい」、「合併による規模効果を生かした農工商の振興を進めるべきだ」といった意見などが出され、それぞれの立場に立った意見交換が行われました。

会場には商工関係者や市民ら約80人が来場し、自分たちが住むまちのまちづくりに関心を寄せていました。

ころもがわ

住民が力を合わせ災害復旧

用水パイプラインの復旧工事



地域住民が協力して行った復旧作業

北増沢水利組合（佐々木勲組合長、組合員7人）は5月1日、岩手・宮城内陸地震で被害を受けた衣川区増沢地内にある農業用水路の復旧作業を行いました。作業には、外の沢営農組合（佐々木和彦組合長、組合員23人）組合員や市職員など計14人が参加し、総延長2.6kmに

わたるパイプの運搬や接合作業に汗を流しました。

この水路は、地区内の水田約3畝を潤すもので、地震損壊後一度は復旧したものの、冬季の落石などにより再び被害を受けていたものです。参加者が補修資材や大型重機などを持ち寄って作業を進め、本格的な農作業シーズン到来に備えました。

お帰り！マエサワクジラ！！

牛博特別企画展で化石が里帰り

牛の博物館の春季企画展「マエサワクジラと発見者・前田正元」が4月26日から6月7日にかけて、同館内で行われています。この企画展は前沢区生母地内で発見され、世界的な標本として注目されたマエサワクジラと、発見者で20年に他界した、同区生母の前田正元さんにスポットを当てたものです。

前田さんが最初に発見したクジラの尾椎3点が初の里帰りを果たしたほか、地元母体小の児童が思いをつづった作文など約60点が展示。企画展を訪れた区内の小学生姉妹は「生きていた当時のクジラを見たい」と、古代に思いをはせていました。



全長レプリカが目を引く企画展

えさし

伝統胸に新たな歴史を刻む

新生岩谷堂高校が開校



あいさつを述べる生徒代表の菊地慶君

岩谷堂高校と岩谷堂農林高校が統合して誕生した新生岩谷堂高校（中山敬校長）の開校式は4月8日、江刺中央体育館で行われました。新入生を除く生徒、教職員ら約700人が出席し、新たに生まれ変わった岩谷堂高校の旅立ちを祝いました。

式典では、県教育委員会の法貴敬教育長が開校を宣言し、校旗を中山校長に手渡しました。生徒代表の菊地慶君（3年）は「両校の伝統を受け継ぎ新たな歴史を築いていきたい」と今後の決意を語りました。新生岩谷堂高校は、岩谷堂農林高校の跡地に校舎を建設し、総合学科など3科体制でスタートします。

伝統の武者行列で街華やぐ

子供騎馬武者行列

水沢の春の伝統行事「子供騎馬武者行列」が5月3日行われ、勇壮な若武者やかわいらしい姫姿を装った一行が、1時間半ほどかけて市街地を練り歩き、終点の駒形神社を目指しました。

この催しは、平安時代末期の東北地方の戦乱を終結させ、この地の平安を願った源頼義・義家父子の故事にあやかり、行事を通して子どもたちが健康に成長することを願ったものです。行列が通行する時間帯は、市街地が子どもに付き添う家族や観客らで賑わったほか、沿道からは、普段なかなか見ることのない馬の姿を懐かしむ声も聞かれました。



馬に揺られて目指すは駒形神社

みずさわ